

第一次大戦後、

『戦争に反対する博物館』を創った人について

エルンスト・フリードリッヒさん(ドイツ人)



戦争で顔の前面を失った人

第一次世界大戦の時、軍隊に入ることを拒否して、精神病院に入れられました。

その後、ドイツのベルリンの町の真ん中に、家を借りて、これを全部自分で改修工事をして、国際反戦博物館を創りました。

それが、やがてベルリンの町の名所になり、市の案内パンフレットに載ったり、ヨーロッパの人々にも知られるようになりました。

彼の考えたことは、「なぜ、平和なドイツに、戦争の恐ろしさを展示する博物館がないのか？ 戦争博物館はいくつもあるけれど、戦争のほんとうの姿を伝えていない」ということでした。

「女の人たちの中には、この写真を見て、気絶する人もいるかもしれない。しかし、どうせ気絶するならこの写真を見て気絶する方が、戦場から『家族の誰かが死んだ』という電報を受けて気絶するよりは、ずっと良いはずだ」

そう考えたからこそ、傷ついた兵士、死者などの写真を展示したのです。

「入場料、普通の人 20 ペニヒ。軍人、無料」

しかし、この後、ドイツでは、ヒトラーの時代になり、テロによって、博物館はめちゃくちゃに壊され、フリードリッヒは、ヒトラーの影響を受けた政治によって、投獄されたり、拷問を受けたりしました。

第二次世界大戦後に、再び評価されて、ベルリン市長に感謝状を贈られたりします。1981年には、孫が、博物館をもう一度建て、その中には、ヒロシマ・ナガサキの写真もあります。

